

8. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所株式会社）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (近畿)		都市型ホテル（客室担当）	・関西国際空港の連絡橋も復旧し、鉄道も通常運行となったことで、徐々にではあるが訪日外国人の宿泊が戻ってきている。
		一般小売店〔珈琲〕（経営者）	・季節要因による、イベントなどへの影響が予想される。
		一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	・関西国際空港の連絡橋の事故によって通行止めとなっていたが、少し解除され、外国の観光客も戻ってきているため、売上の改善につながる事が予想される。
		一般小売店〔家具〕（経営者）	・季節変動により、購買意欲が高まっていく。
		一般小売店〔呉服〕（店員）	・来客数が増加し、催事でも買上げ数が増えている。
		百貨店（企画担当）	・外国人客の減少による影響は今月が最も大きく、月を追うごとに回復が進む。
		百貨店（営業担当）	・インバウンドによる購入も、前年並みか、それ以上が見込める状況になってきている。富裕層の優良客による、高級ブランド品や美術品、金製品などの高額品の購入も、昨今の株高などで伸びる。
		百貨店（営業担当）	・関西国際空港の機能回復でインバウンドの増加が見込まれるほか、株高により富裕層の購買意欲が更に高まる。
		百貨店（服飾品担当）	・客の購買意欲が徐々に戻ることで、高級品や防寒系アイテム、アウター、ブーツなどには更なる追い風が吹く。また、クリスマス商戦も前年よりも日並びが良いことから、大きな災害の影響がなければ、回復傾向が見込まれる。
		百貨店（マネージャー）	・台風21号で閉鎖されていた関西国際空港が復旧し、9月24日以降はインバウンド売上も前年比で30%台後半のプラスに戻っている。今後は、インバウンド売上の復活が見込まれる。
		百貨店（宣伝担当）	・関西国際空港の復旧により、訪日外国人の回復が顕著である。10月は中国の国慶節もあり、近隣ホテルの予約状況も良好なほか、冬物商材の実需期に入り、重衣料の動き出しも順調であることから、期待している。
		百貨店（売場マネージャー）	・9月が底となるが、今後の天災によって左右される感もある。直近まで好調であった特選洋品や化粧品などは、ある程度回復してきそうであるが、主力の衣料品は苦戦が予想される。
		百貨店（外商担当）	・関西国際空港が思ったよりも早く復旧したことにより、インバウンド売上の回復が見込めるほか、秋には隣接するビルが新規開業となるため、来客数の増加が予想される。
		スーパー（店員）	・年末年始に向けて、価格が高めの食材も売れていく時期になるため、売上も伸びていく。
		スーパー（企画担当）	・2～3か月先は年末商戦を迎えるということで、スーパー業界では年間で最も売上が増える。年々厳しい状態となっているものの、当社の強みであるこだわりや、安心、安全といった価値の訴求を明確にし、10～11月でしっかりと種まきを行い、12月に花を咲かせて、業績を回復させたい。
		スーパー（企画）	・消費税の引上げや東京オリンピックに伴い、1年先には景気が良くなる事が予想される。
		コンビニ（経営者）	・フード類の売上好調は相変わらず続いている。プレミアム商品の売上好調も重なり、客単価の上昇傾向はまだまだ続くことが期待される。
	コンビニ（経営者）	・インバウンド客は、関西国際空港の復旧によって回復する。また、たばこが10月1日から値上げとなり、売上が増加する。	
	コンビニ（広告担当）	・景気については、米国との貿易交渉や来年の消費税率10%への引上げといったマイナス面もあるが、2020年の東京オリンピックや、インバウンドの好調などのプラス面も想定される。2025年の大阪万博も決まれば、徐々に良くなる事が期待される。	
	衣料品専門店（店長）	・例年に比べ、ここ2～3か月は悪い状態が続いているが、今よりも悪くなることは考えにくい。	
	衣料品専門店（営業・販売担当）	・秋物のオーダースーツの単価が上がっている。	
	乗用車販売店（経営者）	・新車の販売や車検台数の予約などが、例年よりも少し増えているため、今後は若干良くなると期待している。	
	乗用車販売店（販売担当）	・店舗改装などがあると聞いており、客の動きが活発になる良いきっかけとなる。	

その他専門店 [医薬品] (経営者)	・ 関西国際空港の受入体制が元に戻り、海外からの観光客が戻ってくることで、秋物商材やサプリメントの売上が見込まれる。
その他専門店 [ドラッグストア] (店員)	・ 10月発売の新品や日用品、化粧品などの購入意欲が高まると同時に、最低賃金の上昇に伴って収入が増えることで、プラスアルファの買物が増えることを期待している。
その他小売 [インターネット通販] (経営者)	・ 天候不順が落ち着いたら、秋の行楽での購買意欲も高まってくる。イベントも、ハロウィーンの仕掛けなどで家族客の集客につながる。
一般レストラン (経営者)	・ 9月の後半になるに従い、徐々に来客数は回復したが、完全に戻るまでにはもう少し時間が掛かる。
観光型旅館 (経営者)	・ 11月からのカニのシーズンは、前年よりも動きが少し良い。
観光型旅館 (経営者)	・ 関西国際空港も復旧し、今後は回復に向かう。
都市型ホテル (スタッフ)	・ 台風の被害について、延期による受注は期待できないが、例年開催の宴席は順調に受注できている。宿泊も依然として単価では苦戦しているが、稼働率でカバーしている。
旅行代理店 (営業担当)	・ 消費マインドの回復に期待している。
タクシー運転手	・ 秋に向けて国内客の動きが多少出てきた一方、海外客は横ばいとなっている。
タクシー運転手	・ 9月4日の台風21号による関西国際空港の連絡橋の被害により、インバウンド効果が少し停滞気味である。また、それ以外の国内客の動きが鈍い。今後は職人による建物の修復工事によって、景気が上向くことを期待したい。
タクシー運転手	・ 希望的観測もあるが、これからは宴会や旅行者も増えてくるため、堅調な動きとなる。
通信会社 (経営者)	・ 株価の上昇により、景気が改善する。
通信会社 (社員)	・ 4Kテレビの需要は、これから本格化してくる。
通信会社 (企画担当)	・ 年末に向けて、アミューズメント機器の市場は活性化が期待される。
競輪場 (職員)	・ 例年、12月になれば回復する傾向となる。
その他レジャー施設 [イベントホール] (職員)	・ 災害などの影響も落ち着いてくれば、経済の基調は緩やかに回復しているため、徐々に良くなっていく。
美容室 (店員)	・ 台風の影響が落ち着く。
その他住宅 [展示場] (従業員)	・ 消費税の引上げについて、政府の正式な発表があれば、駆け込み需要が見込める。
商店街 (代表者)	・ 単価については上昇が期待できない。
一般小売店 [衣服] (経営者)	・ 業況が最悪のアパレル業界でも、今後1～2か月は前年並みを維持できそうな雰囲気が出てきている。
一般小売店 [花] (経営者)	・ 年末までは季節商材の需要が増えるが、単価や個数などが悪化しているため、景気が良くなるわけではない。
一般小売店 [衣服] (経営者)	・ 冬場に向けて販売量は増えていくものの、大きく増加する兆しはない。消費者の様子も、これまでと変わりはなく、良くも悪くも落ち着いている感じである。僅か数か月の間に、急に景気が良くなるとは全く思えない。
一般小売店 [野菜] (店長)	・ 物価が上がったまま年末に向かえば、買い控えが多くなるため、小売の見通しは厳しい。
一般小売店 [菓子] (営業担当)	・ 大阪北部地震や台風などの災害があり、当店の取扱商品はざいたく品やし好品であるため、良い風が吹いてくる気配はなく、厳しい状況である。
百貨店 (売場主任)	・ 売上の基調は前年比で3%増といったところである。化粧品を中心とした婦人雑貨や特選ブランド、宝飾品などがけん引する傾向が続くと予想している。
百貨店 (企画担当)	・ 競合店の閉店による売上の増加が、2019年2月までは続くと予想される。
百貨店 (営業担当)	・ 当社は郊外を含め、現在のところは来客数も増加している。イベントの多い時期を迎えるため、極端にマインドが冷え込むような事件がない限り、この傾向は続く。関西国際空港の復旧に伴い、インバウンド客の来店は前年比で横ばいに戻り、化粧品の消費が続いている。次のポイントは消費税率の10%への引上げで、それまでは今の状態が続く。
百貨店 (営業企画)	・ 与党の総裁選挙が予想どおりの結果となり、自然災害によるマインドの低下が落ち着けば、年末に向けて景気は上向くことが期待される。
百貨店 (サービス担当)	・ インバウンド効果もこの2～3年変わっていないため、傾向的には問題はない。集客のための催事やショップの入替えて、新たな客の取り込みに努めたい。

百貨店（商品担当）	・与党の総裁選挙が終了し、国内経済は一旦落ち着いているが、米国の保護貿易主義を巡る対立による、景気の下振れリスクが気掛かりである。来年の消費税の引上げを前にした大型消費についても、どこまで活性化するかが読みにくい。
スーパー（店長）	・人口の動向などから、良くなることは予想できない。
スーパー（店長）	・台風などの災害対策による特需はあるが、今後良くなるはっきりとした要素が不明なため、先行きは上向くとは限らない。
スーパー（店員）	・また台風が接近する予想であり、値段が下がることは当分ない。
スーパー（企画担当）	・競合他社の動きなどを勘案すると、来客数の推移に変化はない。
スーパー（経理担当）	・台風や長雨、気温の乱高下などによる売上への影響は大きいですが、足元の消費は底堅い。天候が安定すれば、秋から初冬にかけては順調に推移する。
スーパー（管理担当）	・農産物も価格の高騰が続き、原油価格も下がらないなど、消費を後押しする好材料が見当たらない。
スーパー（社員）	・関西では、今夏は大阪北部地震や台風などの災害が多く発生し、当社も幾つかの店舗に影響があった。ただし、災害後は、客の購買はむしろ積極的な状況が続いている。家庭内で食事を作ることが再び増えているようで、当面はこの状況が続くと予想される。
コンビニ（店長）	・たばこに関しては、しばらく売れなくなると予想されるが、その分温かい麺類やおでん、フランクフルトなどが伸びてくるため、客の様子からしても、現状維持で推移する。
コンビニ（店員）	・客が減少するような雰囲気は全くないため、このまま継続的に買物してもらえそうである。
コンビニ（店員）	・今後、景気の良くなる要因が見当たらない。
家電量販店（経営者）	・高齢化社会の中で、所得の低い人が多い。将来不安を払拭するような施策がない限り、客の購買量は増えない。
家電量販店（店員）	・歳末セールもあり、来客数は多くなる。
乗用車販売店（経営者）	・景気の良くなる理由が特に見当たらない。
乗用車販売店（経営者）	・米中貿易戦争は収束の糸口も見つからない状態で、株価の下落など、世界的な景気の低迷はしばらく続きそうである。消費を刺激するような政策がない限り、しばらくは景気が低迷することになる。
乗用車販売店（営業担当）	・Web広告を中心に集客を図っているが、反応が悪い。
その他専門店〔宝石〕（経営者）	・貿易戦争の問題がどう推移するのかによって変わる。
その他専門店〔食品〕（経営者）	・特に大きな要因はないので、変化はなさそうであるが、12月になると例年のように忘年会シーズンに入るため、売上は上がってくる。
その他専門店〔スポーツ用品〕（経理担当）	・大阪北部地震の被害による特需にしか、頼れないのが悲しい。
高級レストラン（スタッフ）	・天候が安定しても、今の傾向のまま推移しそうである。
高級レストラン（企画）	・10月からの宿泊予約の獲得状況は、前年と比較して好調となっているが、婚礼の宴会予約が減少している。
一般レストラン（企画）	・既存店売上は、客単価の上昇によって前年をクリアしているが、来客数は前年を下回っているのが現状である。日曜や祝日に比べて、まだまだ平日の来客数が増えていない。客単価が上がると来客数が減少するという傾向には、変化がみられない。
一般レストラン（経理担当）	・原油価格が高騰しつつあるので、物価に影響が出始める。
一般レストラン（店員）	・年末に向けて、忘年会などの外食機会は増えるが、これ以上単価が上がる要素はない。
観光型ホテル（経営者）	・イベントを企画しても集客数が伸びず、何をやっても企画倒れの感がある。新規開拓も難しく、現状維持が精一杯である。
観光型ホテル（経営者）	・経済政策に変化がみられないほか、災害が重なったことで、様々な支障が出てくる。
都市型ホテル（スタッフ）	・関西国際空港が通常どおりに稼働すれば、現状よりも好転すると予想されるが、まだ予断を許さない。一方、宴会などは順調に予約が入ってきている。
都市型ホテル（管理担当）	・関西国際空港の復旧状況や、今後の自然災害の動向次第であり、どのような推移となるかは予測できない。

都市型ホテル（総務担当）	・今後の宿泊予約の状況を見ると、前年を大きく下回っている。関西国際空港の鉄道などの復旧に伴う海外エアラインの運航再開で、インバウンドの回復が見込まれるものの、客室単価の低下傾向は続いており、厳しい状況が続く。
都市型ホテル（管理担当）	・関西国際空港の運航制限による影響が長く続くとは、現状では考えにくい。
旅行代理店（支店長）	・現在はまだ大きな動きになっていないが、今年の年末年始は日並びも良く、1月4日を休めば9連休となる。これをきっかけに客の旅行マインドも上がると予想されるが、現状をみれば、状況が変わることは期待しにくい。
旅行代理店（役員）	・連休もあったため、ここへきて国内旅行にシフトする客も増えつつある。来客数は増えてきており、単価も上がってきている。
タクシー運転手	・自然災害による被害で、建設関係や保険関係の需要がやや増加したものの、大きな影響はない。
観光名所（企画担当）	・台風や大阪北部地震の影響はあるが、徐々に来場者は戻りつつある。
遊園地（経営者）	・台風21号の被害に加え、それ以降も気象状況が不安定であったため、業績が安定しない。インバウンド需要は元々多くないが、それでも明らかに減少しており、先行きが不透明である。
競艇場（職員）	・全国発売のG1競走や、通常のG1競走の売上は、ほぼ前年並みに推移しており、今後も同じような動きとなる。
その他レジャー施設 [球場]（経理担当）	・プロ野球シーズンは終了するが、10～12月には人気グループなどのコンサートが開催されるので、例年どおりの集客を期待している。
その他レジャー施設 [飲食・物販系滞在型施設]（企画担当）	・災害続きの日本に対する、インバウンドの観光の落ち込みが懸念される。
その他サービス[ビデオ・CDレンタル] （エリア担当）	・物販売上はタイトルや時期に影響されることもあるので、書籍を軸にした複合カフェなどで売上を強化したい。
住宅販売会社（経営者）	・今しばらくは、表面的な土地単価は高止まりの傾向となるが、現実の取引価格は下降気味の状況が続く。明らかなバブルの崩壊までは、もう少し時間が掛かる。
その他住宅[情報誌] （編集者）	・不動産価格の高騰で、消費者の行動が停滞している。
一般小売店[時計] （経営者）	・年末に向けての予想ができない。若い人たちの買物はインターネットが中心になるなかで、Web上では在庫があるにもかかわらず、当店からメーカーに聞くと、在庫がないと回答されることもある。対面販売の限界を時々感じており、先行きは不透明である。
一般小売店[貴金属製品] （従業員）	・災害が連続していることで、悪影響が出る。
百貨店（売場主任）	・前年は気温の低下により、徐々に防寒品を中心としたシーズン商材が好調であったが、今年はその反動で厳しい状況が予想される。その上、インバウンド需要が関西から他の都市に流れており、従来のような伸びは期待できない。国内客の購買意欲が鈍化しているなか、良くなる要素が見当たらない。
百貨店（売場主任）	・今回の台風による被害の影響は、かなり長引く可能性がある。消費マインドが節約志向になり、買上げ単価も落ちることが懸念される。
百貨店（マネージャー）	・大阪北部地震や台風被害などの風評もあり、インバウンド需要は厳しい状況が続く。また、サプライチェーンへの影響などで、国内産業にはコスト増といった影響が出ており、結果的に関西の消費はやや停滞する。
百貨店（販促担当）	・月末に向けて大型台風の接近が再び予想されているほか、今冬も寒暖の変化が大きくなると、ますます消費者が守りに入る事が懸念される。また、米国の貿易政策によって株価が変化すると、富裕層による年末の購買にも影響が出そうな気配である。インバウンドの減少も一時的であればよいが、不安要素が目白押しである。
百貨店（マネージャー）	・貨物便を除いて関西国際空港の運航が復旧してから、店内や街にも訪日外国人がこれまでのように多くみられるようになった。ただし、大規模な自然災害が多発した影響か、店頭での国内客には、余り明るい兆しが見受けられない。直近では株価がバブル期以来の高値を更新するなど、富裕層には明るい材料もみられるが、中間層の消費が好転する材料には乏しい。

	スーパー（経営者）	・前年のこの時期は、株価や仮想通貨が異常なほど上昇していた。そのなかで、農産物が極端な相場高となり、本来は売れないような牛肉や鍋物の高単価の商品もよく売れた。今年は4～6月が低迷し、7～9月は気象要因で特需が生まれている。今後、米国の中間選挙の結果次第では、株価の腰折れや円高などで日本の景気にも悪影響が出ることから、前年のような浮かれた状態は期待しにくい。
	スーパー（店長）	・米中間の貿易摩擦が日本にも飛び火してくれば、年末にかけて景気後退の局面も予想される。
	スーパー（店長）	・10月からは、競合店の改装オープンもあり、来客数の減少が予想される。
	スーパー（開発担当）	・原油価格が上昇しており、商品単価も徐々に値上がりしているなど、良くなる要素がない。
	家電量販店（企画担当）	・日本の自然災害の多さや、外国人向けの災害対応の地域差などに対する、外国人観光客の不安が解消されない限り、しばらくは回復が見込めそうにない。
	家電量販店（人事担当）	・4K、8K放送が開始されるが、コンテンツが乏しいほか、チューナーが高額であることから、売上をけん引するまでには至らない可能性が高い。
	乗用車販売店（経営者）	・台風以降、客足が遠のいた。車どころではないのか、優先順位が低いのか、保険での修理依頼ばかりである。
	住関連専門店（店長）	・災害続きで客の購買意欲が低下しているため、この状態がしばらく続く。
	その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	・今年は暖冬傾向になると予想され、衣類などの服飾業界には影響があるかもしれないが、全体としては災害による出費や備えの見直しなどが優先される。
	その他小売〔インターネット通販〕（企画担当）	・来年10月に予定されている消費税の引上げ議論も本格化し、消費意欲が一層停滞することが懸念される。
	その他飲食〔ファーストフード〕（店員）	・まだまだ残暑が続いており、今後も秋らしくならないと予想されるため、来客数は増えない。
	観光型旅館（管理担当）	・災害対策の遅れによる経済の停滞や、米中間の輸入関税問題、米国による日本向けの関税の引上げ懸念などで、先行きに不透明感がある。原油価格の上昇など、不安要素も多過ぎる。
	テーマパーク（職員）	・来年度の予算編成において、消費税の引上げに関する方針がやはり気になる。増税がトータルとしての税収増にならないことは過去の事例をみれば明らかであり、本当に増税するとなれば、消費は必ず落ち込む。
	その他サービス〔学習塾〕（スタッフ）	・10月からの価格改定のせいか、教科数を減らしたり、退会者などが出始めている。
	住宅販売会社（経営者）	・客の減少による影響で、先細りになってきている。
	住宅販売会社（総務担当）	・台風21号の影響が大きく、工事が遅れており、進捗状況が悪い。
	その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	・不動産取引について、金融機関の融資姿勢が厳しくなってきている。
	その他住宅〔住宅設備〕（営業担当）	・低価格での災害特別点検などへの対応で、通常の点検業務がこなせないため、全体の売上は減少気味になってきている。
×	一般小売店〔精肉〕（管理担当）	・北海道胆振東部地震の影響で、牛の生産にも影響が出てくるのが心配される。これから繁忙期に入っていくなか、全ての食材の高騰が予測される。また、全国的にも被害は小さくないため、景気にも影響が出てくる。
×	スーパー（経営者）	・低価格志向が強まり、必要な商品や特売品以外は買わない傾向にある。
×	スーパー（店長）	・今年は暖冬の予想となっている。また、貿易戦争が勃発しているにもかかわらず、米国の株価は上昇しているため、どこかでバブルが弾けそうである。
×	衣料品専門店（経営者）	・現状が悪いので、今後も悪くなる。秋物商材がたくさん売れ残っている。
×	衣料品専門店（経営者）	・相変わらずデフレ状態であると認識している。客は、最低限の必要な物しか買わないという状況が続いている。台風や地震などの自然災害が、より一層財布のひもを固くすると予想される。
×	一般レストラン（経営者）	・良くなる見通しが無い。
企業動向	木材木製品製造業（経営者）	・従来の事業に加えて、新規のバイオマス燃料事業も始まるため、利益が格段に増加する。

関連 (近畿)	その他サービス〔自動車修理〕(経営者)	・年内は今の状況が続くそうである。
	食料品製造業(経理担当)	・政治も現総理の与党総裁再選で落ち着き、災害の損害保険金対応も迅速に進むことで、上向きになる。
	化学工業(企画担当)	・年末で食品の需要期となるために、一時的に状況が改善される。
	電気機械器具製造業(宣伝担当)	・12月の4K、8K放送の開始に伴い、特に4Kテレビの販売増加が期待される。
	建設業(経営者)	・このまま年末まで売上は緩やかに増えていく。
	建設業(経営者)	・消費増の引上げ前の駆け込み需要に期待したい。
	輸送業(営業担当)	・災害後は電子部品工場からの荷物の増加が目立つが、米国向けの輸出関税率の上昇を見越した、前倒しの動きかもしれない。
	輸送業(営業担当)	・競合店が閉店となるため、客が増える。
	金融業(営業担当)	・大阪北部地震や台風で大きく被害を受けた地域を優先的に、改善策を検討することになる。
	広告代理店(企画担当)	・海外情勢が変化しても、余り株価への影響がないので、少し安心感がある。
	経営コンサルタント	・災害の復旧に助成金が出るほか、年度内での完了といった条件もあるため、建築や設備などの特需は続く。
	経営コンサルタント	・人手不足や働き方改革、採用難といった人材を取り巻く環境の中で、省力化を目指したり、教育によって生産性を高める動きがこれからも続く。
	食料品製造業(従業員)	・気候が安定しないので、今後収穫される野菜価格の高騰も予想され、当社の調味料の売上に影響が出る。
	食料品製造業(営業担当)	・10月のイベントであるハロウィーンはあるが、売上は前年並みで余り変わらない。
	繊維工業(団体職員)	・年末需要に向けての動向は、おおむね前年並みと予測している。ただし、人件費や資材価格の高騰、更には外注加工費の値上げ要請などもあり、どれだけ価格転嫁できるかが重要である。
	繊維工業(総務担当)	・受注量や販売額がなかなか増えないため、高付加価値商品の販売比率を高めていかなければならない。
	家具及び木材木製品製造業(営業担当)	・仕事内容に変化がない。
	パルプ・紙・紙加工品製造業(経営者)	・季節要因で生産量は増えることが予想されるが、大きな変化はない。
	化学工業(経営者)	・取引先からの新規製品や新規事業への問合せは少なく、先行きには期待できない。自社での新規事業の取組を活発化させているが、3か月程度では成果は出ない。
	化学工業(管理担当)	・取引先からは、発注量が若干増加するとの情報を得ているが、米国による中国への制裁関税の影響を受けるため、増加することはない。
プラスチック製品製造業(経営者)	・試作関連の受注が減っており、新製品の動きの鈍化が懸念される。受注の動きは、生産調整後に持ち越された感があり、しばらくは横ばいの見込みである。	
金属製品製造業(経営者)	・米国の輸入関税問題により、中国製品が日本に押し寄せてくることが懸念される。	
一般機械器具製造業(経営者)	・受注量の推移から、今後数か月は景況に変化はない。	
一般機械器具製造業(設計担当)	・株価や為替の変動は予想されるが、全体的な消費は変わらない。	
電気機械器具製造業(経営者)	・景気の先行きは分からない。市場の状況からは良くなると予想されるが、いよいよ日米の首脳による通商交渉が始まり、米国大統領には押し込まれそうである。現政権の下では、先行きが不透明で全く読めない。	
電気機械器具製造業(営業担当)	・今月は台風の影響で仕事が入ってきているが、それ以外の仕事は少なめである。	
輸送用機械器具製造業(経理担当)	・競合が激しく、引き合いをいかに成約させるかが課題である。	
その他製造業〔事務用品〕(営業担当)	・新商品の動きが悪いので、今の状態が続く。	
その他製造業〔履物〕(団体職員)	・台風の影響により、靴の材料の輸入に支障が出ており、メーカーにとっては納期遅れの心配が出てきている。	
建設業(経営者)	・今後も台風が直撃すれば、得意先の業績に影響が出る可能性もある。現在も、屋根や防水関係の建設資材の確保など、技能労働者は大変な状況である。	
輸送業(商品管理担当)	・毎年10～11月は特にイベントがなく、売上は横ばいとなる。	
通信業(管理担当)	・台風の影響で景気が冷え込む。	

	金融業 [投資運用業] (代表)	・米中間の貿易戦争に加え、更に米国はその矛先を日本に向けつつある。もしこれが本当に実行されれば、景気のけん引役といわれる自動車産業を始め、各分野に暗い影を落とすため、将来の景気を楽観できる状態ではない。
	金融業 (副支店長)	・取引先の受注状況に変化はなく、関西の景気はなかなか上向かない。
	不動産業 (営業担当)	・地元からの企業の撤退が続いているため、将来の景気も横ばいか、悪くなる。
	新聞販売店 [広告] (店主)	・折込収入は前月よりもやや良くなっているが、毎年9月は良いほか、8月が悪過ぎた部分もある。
	広告代理店 (営業担当)	・売上の前年比の状況は変わらない。
	広告代理店 (営業担当)	・年内に良くなる兆候は、今のところ広告業界ではみられない。
	司法書士	・良くない状態に自然災害が加わることで、更に悪くならないよう、現状を維持したい。
	その他非製造業 [機械器具卸] (経営者)	・国内製品のほぼ半分が値上げとなっている。そのために商品の動きが少し鈍化している。
	その他非製造業 [衣服卸] (経営者)	・今後も消費の構造的な状況は変わらない。インバウンド需要に支えられ、消費全体では数字が出ているため分りにくいが、国内客の消費が前年比で悪化している分野は広がっている。景気認識は厳しいと判断している。
	その他非製造業 [商社] (営業担当)	・新製品が完成しても、それからの販売となり、売上が見込まれる時期としてはまだまだ先になる。
	繊維工業 (総務担当)	・催事の新たな取組に、得意先が対応できていないようである。
	出版・印刷・同関連産業 (企画営業担当)	・上期の天災などの影響で、削減可能な予算は下期に削減されるため、広告などの発注は減少傾向となることが予想される。
	金属製品製造業 (営業担当)	・今後も、販売価格の改定を客に受け入れてもらうのに、苦労することが予想される。
	電気機械器具製造業 (営業担当)	・受注が少しずつ減ってきている。
	その他サービス業 [店舗開発] (従業員)	・米中貿易摩擦がヒートアップするなか、日本も対岸の火事では済まされない状況になりつつある。
	x	-
雇用関連	*	*
(近畿)	人材派遣会社 (支店長)	・米国による中国への制裁関税により、今後の不透明感はあるが、しばらくは好調が続く。
	人材派遣会社 (営業担当)	・当面の間、特定業務における派遣募集は続きそうである。
	民間職業紹介機関 (営業担当)	・年末に向けての業務が発生し、求人数が増える。
	学校 [大学] (就職担当)	・気候変動などの影響が少なければ、少し上向くのではないかと感じる。
	学校 [大学] (就職担当)	・人手不足が業績と連動しているのであれば、少し良くなってくる。
	人材派遣会社 (経営者)	・10月からの下期に関しては、力強い動きとなっている。インフラ関係は関西圏で特に好調なようで、オーダーは非常に活発となっている。9月末で契約終了となったスタッフの受け皿もかなり出てきており、派遣会社は当分この忙しさが続く。
	人材派遣会社 (役員)	・台風21号の一時的な影響はあるものの、全体的な人材マーケットを取り巻く環境に、特段の変化はない。
	新聞社 [求人広告] (管理担当)	・新聞求人の推移には、この先の景気の方向性を示す動きはみられない。ただし、景気がどちらに振れる可能性が高いかを考えると、今夏の猛暑や強力な台風による被害、最近の長雨などの自然災害によって、一時的ではあるが下振れする可能性が高い。
	新聞社 [求人広告] (担当者)	・年末に向けて、特に目立った事業やイベントはなく、このままの推移が続くと予想している。
	新聞社 [求人広告] (営業担当)	・求人広告に関しては、少し落ち込んでいたのが戻ってきたような流れもみられるが、大幅に増えることはない。
	職業安定所 (職員)	・台風の影響が少なからず、求人や求職の推移にも出てくる。現時点で、大規模な雇用調整などの事案はみられないが、今後どのような影響が出るかはつきりせず、状況を注視している。
	職業安定所 (職員)	・新規求人数が減少傾向にあるが、依然として求人倍率が高く、人手不足感は強い。特に、人手が足りない建設業や運輸業、医療・福祉業では、求人は多いものの、希望する求職者数が少ない。

	民間職業紹介機関（職員）	・建設関連の日雇求人は、大阪北部地震や平成30年7月豪雨の復旧工事の影響を受け、若干の改善傾向にある。今後は、人手の確保とのバランスが取れるかどうかを注視していく。
	人材派遣会社（営業担当）	・求人数が多く、求職者が少ない状況が続いている結果、求人がミスマッチとなる期間が長くなっている。派遣会社にとっては、実稼働時間が売上になるため、この影響が出ている。
	職業安定所（職員）	・台風による被害の影響で外国人観光客が減少し、先行きに不安感がある。
	民間職業紹介機関（営業担当）	・2021年卒の採用スケジュールは不確定で、採用ツールも多様化し、競争が更に激しくなると考えるため、今後景気は悪くなっていく。
x	-	-